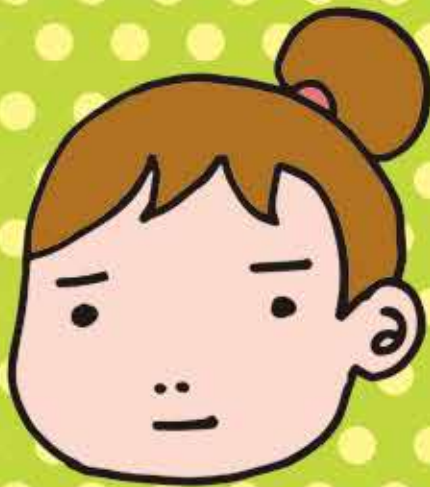


ともに生きる

～ 心のとびらをあけよう～



あなたは、いま幸せに暮らせていますか。あなたの家族や友人、近隣に暮らす人はどうですか。自分や身近な人が幸せかどうかを振り返ってみると、さまざまな理由による生きづらさ（本文では「もやもや」「しんどさ」と表現しています）があることに気づきます。

私たちはたくさんの人たちに囲まれて生きています。人にはそれぞれの個性、色々な考え方があり、おかれている環境もちがいます。身近な場面からその生きづらさについてふり返り、気づき、考えることで、お互いの人生をより豊かなものにできるのではないのでしょうか。

そして、互いに尊重し、ちがいを認め合い、みんながともに幸せに生きるためにできることをいっしょに考えていきましょう。

とう じょう じん ぶつ
登場人物



まつだ うみ



まつだ たかし



いけだ しょうご



きくち けいじゃ
(けいち)



よしだ みさき



まつだ てつお



あおき たかひろ



あおき かずこ



さい きん とし ちち
最近、^{しん ばい} 歳のせいかな父には
心配なことが増えている



ママはどうして...



じ ぶん
自分のことは自分で考えたい
じ ぶん
自分のことは自分で決めたい

自分^{じ ぶん}で決^きめたい



でも気がついたら家族は離れていった



でも気がついたら限界だった



気持ちに素直に なりたい

弱音なんてはけない



…でも、いつまでがんばればいいのか

自分のことを言いたい



ぼく^すの住んでいるところは「被差別部落」
というらしい
住んでいるところを言ったら次の日
たかし君は少し不安げな顔をした



わたし^{こく}の国籍は日本ではない
名前も日本^{なまえ}の名前とは違う
今まで日本^{いま}の名前を名乗っていた
ある時、クラスで本当の名前を言ったら
たかし君は困ったような顔をしていた



けいこちゃんは、日本^にの名前^{なまえ}のほかに本当^{ほんとう}の
名前があるって自分で言っていた
私は女の子^{わたし}って言われているけれど、なぜだ
かスカートをはいたり女の子^{おんなこ}同士で話をし
たりするのは、変な感じがする
けいこちゃんみたいに本当^{ほんとう}のことを言っ
てもいいのかな



ぼく^{いえ}の家にはパパがいない
ママはいつも仕事で遅い
一緒に住んでいるおじいちゃんが、最近^{さいきん}様子
が変わってきてママと言い合いしている
僕は、そんな家^{いえ}に帰りたくないけど、それを
言ったらいけない気がする



自分で選べる 自分で決められる

人生は、自分で自分のしたいこと・やるべきことを選び、決めることができれば豊かで楽しく幸せなものになります。しかし、「きっと理解できないから」「幼いから無理」「年齢から危険」など「その人のため」を思って言う言葉はたくさんありますよね。でもその時相手は、やりたいことをぐっとこらえる表情になってはいませんか。

ちゃんとした説明がある 学びもある

「したいこと、やりたいことを好きに決めていたら、人に迷惑をかける」「わがままに育つ」「危険なめにあったらどうするの?」確かにその心配、ごもっとも…、かもしれませんが、もしかしたら、もう少しわかるように説明されたり、理解できるような学びを積み重ねられたなら、その人それぞれの幸せの選択・決定ができるのではないのでしょうか。



でも、やっぱり失敗することもあるでしょう。

失敗できることも大切
小さな失敗の積み重ねも大切
それを乗り越えていく経験も大切

じっくり考えることができ、失敗OKな社会に。

ゆっくり説明を聞いたり、深く学んだり、時には失敗しても挽回できたり。

だけど、だれか一人ががんばるだけでは、今度はその人がしんどくなるばかり。

失敗OKの社会をともに作りましょう。

気持ちは素直に 伝えていい

「女性だから、男性だから、子どもだから…」「これくらい、誰でもがんばっている」など、言い返さなくても言い返せずに、もやもやした気持ちになったことはありませんか。「こんなこと言ったら、変に思われるかも」「言い出すほどでもない」と自分の中に言葉を押し込んだ経験はありませんか。

自分の気持ちに 素直になっていい

「人に迷惑をかけてはいけない」「役割はきちんと果たすべき」。確かにその通り…、かもしれませんが、例えば、グループのメンバー同士が、対等な立場でそれぞれの意見を尊重して決めて作ったルールならその通りでしょう。

でも「なんとなく感じる常識の圧力」のなかで、「空気を読んで」「肩身の狭い思い」をしているのなら、もう少し本当の気持ちに素直になってもよいのではないのでしょうか。



気持ちは素直に伝えていい

自分の中に押し込んだ言葉を伝えてみてください。そして伝えられた人は、その言葉を真剣に聞いてください。

もやもやした気持ち、しんどい気持ちを
ひろって世の中は進歩する。

一人の「もやもや」や「しんどさ」は、一人だけのものではありません。人数は少なくても必ず同じ思いをしている人がいます。小さな「もやもや」や「しんどさ」を受けとめ、より立場の弱い人に焦点が当たる人権尊重の社会をつくりましょう。

コラム 災害と人権

大きな災害があるたびに、「女性への配慮が必要だった」「子どもの居場所・役割が大切」「高齢者がトイレをがまんするため水分を取らなかった」「言葉がわからない外国人に情報が伝わらなかった」「福祉避難所(特別な配慮が必要な人のための避難所)が必要」「性的少数者がトイレや着替えでつらい思いをしている」…数えきれないほどのしんどさが浮き彫りになりました。

これらのことを一つひとつ取り込みながら、災害時への備えは進化しています。

自分のことを ありのままに言える社会に

「本当のことを言いたい、自分にうそをつきたくない」「もっと自分のことを知ってほしい」「本当のことをわかって助けてほしい」。

しかし、社会の中の偏見が強い場面ほど、「言いたくても言えない」「知られないよう隠し続ける」経験はないでしょうか。

言える人と
言えない人が
いるなんて変だ

「生まれた場所、名前、性的指向、家庭のこと」「本当の気持ち、希望」

どれもその人の一部です。言える人と
言えない人がいるなんて不公平です。

言えないということは
言えない人の責任ではない

悩みに悩んで言うか言わないか決めないとい
けない人がいる。それは、言えない人が「普通の
人」と違うからしかたないのでしょうか。勇気が
ないからしかたないのでしょうか。

実は、周りから受け入れられるかどうか不安だ
からです。受けとめる側からの「言ってもOK」
「受け入れるよ」のサインが必要なのです。

お互いがエンパワメントされる関係になる。
「大切なことを言う・伝える⇔真剣に聞く」
言った方は真剣に聞いてもらえて、うれしく
て元気がでます。
言われた方は信頼されていることがわかり、
うれしくて元気がでます。



・コラム・ アウティング

自分のことが言えない背景には、そのことが一般的にマイナスとされたり、差別の対象になっているという理由もあります。そして、打ち明けられた（＝カミングアウトされた）秘密を、その人の了承なしに暴露することをアウティングと言います。アウティングは、プライバシーの侵害だけにとどまらず、人の心身を傷つける非常に深刻な問題なのです。

心のとびらをあけよう



ありのままを認めあい ともに生きる社会

ふ べん おお
不便なことは多いけ
れど、たかひろが思
うほどじゃないよ

あん しん
だから安心して



なか よ
いつでも仲良
くとはいかないけれど...

まえ ちち
お前の父で
よかった

むすめ
あなたの娘で
よかった



すこ ほん ね い
もう少し本音も言えたら
お互い無理せずあんだかもね

11-ツが2つ
あってうらやましい

こん ど いえ
今度家に
遊びに行くね

みんなずっと
友達だよ



同和問題から 人権を考えてみましょう

今も差別はあるのですか？

〈住んでいるところと言えない〉

高校生になったある日、電車の窓から景色を見ていたら、友人が「この辺はあんまり行かん方がええで。近寄らん方がええ。」といった。

ぼくはそこが被差別部落だと知っていた。だが、何もいえなかった。自分のくらしているところも被差別部落だからだ。

ぼくは自分の住んでいるところがいえなかった。

〈結婚の前〉

わたしは彼氏のお母さんから「どこに住んでいるの？」と聞かれそうになったら、さっと話題を変えたり、さっさと帰ったりしていた。それは以前わたしがお付き合いをしていた人の親に、わたしが出身中学校を話した後で、二人の交際を反対されたことがトラウマになっていたからだ。

彼氏はわたしのそんな雰囲気気に気づき、「話したくないことあるんか？」と聞くので、トラウマのことを話した。「うちのお母さんはそんな人じゃないよ」といったので、次はいおうと思った。

そんな覚悟で彼氏のお母さんとおしゃべりをしていたら聞かれたので、中学校名を答えた。すると、「わたしはその中学校に仲のよい子が多かったよ」と話してくれた。

わたしを差別の目で見ない人だと思った。

2014（平成26）年度 船松人権歴史館発行
「いま伝えたい大切なこと -10代20代のほんとはなし-」から

差別は今もあります

2014（平成26）年に、同和地域に住む若い人からの取材で得られた言葉を書きました。

「自分の住所が言えない」「出身中学が言えない」。自分のことが言えない若い人が今もいます。「結婚に反対されたらどうしよう」と不安になる人がいます。自分の結婚を自分の意思で決められない不安が今もあるのです。

・コラム・ 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消法）

2016（平成28）年12月、いまなお残る部落差別を解消し差別のない社会の実現を目的とする法律が成立しました。

なぜ、昔のことを学ぶのですか？

それは、同和問題、部落差別の歴史に、人権に関するさまざまな課題と解決の道筋がみつまっているからです。

人権を学ぶ

- 自分ではどうしようもないことで差別されてきました
自分たちが決めたわけでもないのに「被差別部落」とされた場所に生まれたり、親がその場所出身だということで差別されました。出身地は努力では変えられません。
- 差別の結果、自分のしたいことを考えたり決めたりすることができませんでした
差別ゆえ、結婚も仕事も自由に決められない。差別の結果としての貧困ゆえ、学ぶ機会を奪われ、人生の可能性を失うことになりました。
- 本当の自分を伝えることに、なかなか踏み出せませんでした
どこで生まれ、どこに住んでいるのか。自分のルーツがどこにあるのか。どんな仕事をしているのか。そんなあたりまえのことも言えませんでした。

人権とは何か。人権を侵害されるとはどういうことか。同和問題、部落差別の歴史を学ぶことで、その輪郭がはっきりわかります。

人権課題の解決を学ぶ

- 同じ差別を受けている人同士、力を合わせて差別をなくす努力をしてきました
水平社宣言（※1）に代表されるように、当事者同士が力を合わせ、差別の不当性や互いに尊敬し認め合う人間関係の重要性を訴え続けてきました。
- 自分たち自身で、生活やまちをよくする努力をしてきました
隣保館（※2）建設などにより、地域の拠点を整備し、生活の改善や教育の向上に取組み、住民の交流を図るなど。現代につながるまちづくりを進めてきました。
- 差別を社会で解決するよう、一つひとつ働きかけてきました
同和問題、部落差別解消の取組により、同和对策事業特別措置法という法律ができました。この法律が差別を解消する大きな原動力となりました。

人権課題の解決に向け、力を合わせ、自らを高め、差別が存在する社会を変える。その道筋が見えてきます。

（※1）水平社宣言：1922（大正11）年3月3日京都市の岡崎公会堂で、歴史上初めて被差別当事者自身が「自主的な連動で部落解放を勝ち取る」とした宣言。
（※2）隣保館：地域社会の中で、福祉の向上や人権啓発、住民交流の拠点となる開かれたコミュニティーセンター。生活上の各種相談事業や人権課題の解決のための各種事業を総合的に行う。